

関西学院 千里国際中等部・高等部

新シリーズ「Authentic Opportunities 本物に触れる教育」 第8回

オールスクールプロダクション

～インターとのジョイント校ならではの Authentic opportunity ～

It is possible! Anything is possible!

Dr. Seuss・・・アメリカで幼少期を過ごした人で、この人の書いた絵本を読んだことがない人はきつーいないと思います。韻を踏んだユーモラスでリズムカルな語り口と、そこに込められた哲学は独特で大人も魅了されます。その Dr. Seuss の 15 作以上とも言われるたくさんの作品のエッセンスをひとつに詰め込んだ楽しいミュージカル Seussical!それが今回の演目でした。

関西学院千里国際中等部・高等部(以下、SIS)は、併設の大阪インターナショナルスクール(以下、OIS)と、Two Schools together の理念に基づいて多くのことを一緒に行っています。これまでこの紙面においても、インターの生徒と一緒に受ける音楽・美術・体育、インターならではのシーズン制スポーツ、ジョイントの生徒会活動・・・などを紹介してきましたが、今回紹介する SIS/OIS 合同の学校行事「オールスクールプロダクション」は、それらとは一点さらに大きく違っているところがあります。それは「中等部・高等部」の同じ年齢の生徒同士のジョイントだけではなく、OIS の小学部の生徒を含めた幅広い年齢の生徒が集まり、そして教員や保護者の多くも関わる、まさに「オールスクール」なイベントであることです。今回の Seussical でも、高校生の演じる The Cat in the hat や象の Horton 達と小学生が演じる The Whos の小人たちの絡みの可愛さ、年齢を超えた生徒たちが一緒に歌い踊る笑顔が何より印象に残っています。

インターナショナルスクールや欧米の学校では、学校で演劇やミュージカルに取り組むというのは珍しくありませんが、日本では「演劇部」というものはあっても、なかなか「ミュージカル」に本格的に挑戦できる機会はありません。「ミュージカル」という欧米発の文化に、しかも「英語で」「本格的なレベルで」取り組めるこの行事は、特に SIS 側から見れば、まさしく『Authentic opportunity--- 本物に触れる教育』を提供しているといえると思うのです。

これは、いわゆる「クラブ活動」ではありません。メインキャストは公募の上オーディションを経て決定されます。オーケストラメンバーも同じく。2ヵ月半ほどの練習期間の前半は、中高生のキャスト、小学生の子役たち、オーケストラがそれぞれに練習を行います。後半はそれらを合体させてのリハーサル。直前のドレスリハーサルを経て、4 回の本番公演に臨みます。もちろん、舞台に立つ生徒たちとオーケストラピットで演奏する生徒たちだけでは舞台は完成しません。音響、照明、バックステージ、衣装、化粧、ポスターやパンフレット作りなど、多くの生徒が得意な技術を生かして参加します。公演は英語ですが日本語の字幕を出しています。この日本語訳作成は膨大な作業ですが、興味を持つ生徒が名乗り出てくれて行っています。また、大道具・小道具の作成に関しては、OIS/SIS の高校生の美術の授業で「Textile/Costume」というタイトルの授業があり、この授業を選択した生徒たちの作品なのです。

SIS 側から見ると、英語学習としても Authentic (=本物に触れる)な環境が与えられているといえます。英語のネイティブスピーカーの耳に自然に通じる英語でなければ困りますので、場合によっては発音やイントネーションの訓練もされます。一般生(帰国生ではない生徒)の生徒たちでも、ここでのトレーニングを経ていつかネイティブとして通用するだけの英語力で舞台に立てるように成長していく様は時に感動的です。

